

は  
ち  
ち  
み

http://hacchi.jp



vol.33

このまちがもっと、このまちらしく輝くためのソウゾウ開化…  
「はっち」が贈る、おいしい情報。

はっち8周年  
8周年事業

8年を振り返る  
アーティスト・クリエイター・市民のみなさんに聞く

こどもはっち・こだわりの「8」・hacchiな人々  
こどもはっちの8年・幸せの「8」を探せ・あなたにとって「はっち」とは



780  
19

hacchiな人々

はっちで働く皆さん

日々心がけていること・お客様へのメッセージ…

インフォメーションさん

はっちへ来館された方へ、笑顔で元気に挨拶や声がけができるよう心がけています。来館される方が知りたい情報を分かりやすくお伝えできるよう、お客さまとコミュニケーションを取りながらご案内しています。以前対応したお客さまから「はっちに来ると何でもわかる」と言っていたことが嬉しく印象に残っています。はっちはもちろん、中心街・市内のイベント等、情報を収集して皆さまのご来館をお待ちしています！



警備さん

お客さまの安全・安心を第一に考え、皆さまが満足してはっちをご利用できるよう、事故の発生防止に努めています。はっちは来館される方やスタッフが心温かく、思いやりがあるので、対応する私たちにとっても楽しい職場環境です。また、はっちの向かいにありますマチニワも私たちが警備を担当しておりますので、気になることなどありましたら、気軽に警備スタッフへお声がけください！



ボランティアガイドさん

八戸へ観光で来られた方や市民の方々へ「八戸を好きになってもらいたい！」と思いながらガイドをしています。観光で八戸へ来た際は、はっちのボランティアガイドと話していただければ、お客さまの興味がありそうなスポットをご紹介します！はっちには市民作家の方をはじめ、八戸ならではの作品が多数展示されていて、アートとして館内を見て回るのも楽しいですよ。ぜひ八戸のおもしろさ・素晴らしいさを感じはっちへお越しください！



清掃さん

「来館された方に、気持ちよく帰ってもらえるように」を心がけて清掃作業をしています。特にトイレの清掃には力を入れて、常にきれいな状態を維持できるように対応しています。「トイレが綺麗な施設はお客様が来てくれる」と、清掃スタッフの共通認識として清掃にあたっています！近隣のお店の方も館内を使用していただくことがあるので、たくさんの方に「綺麗な施設」として定着して、来館して下さると嬉しいです。



はっちをご利用の皆さん

はっちは私にとってこんな場所…

中学生の時、私も制作に携わった「世界一大きな絵プロジェクト」の作品を見はっちに来たことが印象に残っています。今は高校生になり、学校帰りははっちへ来るようになりました。はっちの中は冬でも暖かくて、勉強できる椅子やテーブルがたくさんあるので、友達と一緒に宿題やテスト勉強をするためによく利用しています！



八戸工業高等専門学校  
姓名さん・及川さん



はっちでイベントを開催している  
千葉学園高等学校 筒井先生

開館当時、千葉高は創立101年。何か新しい形で市民の方へ感謝の気持ちを伝えたいと思い「はっちで千葉高」を開催しました。毎年開催していますが、初年度は震災もあり、より生徒たちの笑顔や元気を届けられればという気持ちが強かったですね。幅広い世代の方が参加できる体験や発表・展示を企画していますが、毎年参加して下さる方もいるのが嬉しいです！

8年前から利用しているはっちファンです。3階のテーブル席が私のお気に入り！適度な日当たりが、読書するのにとても居心地がいいですね。静かすぎるのは逆に集中できないので、はっちのほどよい賑わいの音が私にはちょうど良く、午前中にははっちで読書するのが私の生活サイクルの一部になっています。友達と街でランチをする時の待ち合わせ場所にもよく利用しています。



はっちリビングを  
ご利用の尾崎さん



ものづくりスタジオ卒業生  
7the4th 小林さん  
(2014-2017入居)

北海道から八戸へ移住し、ものづくりスタジオに入居しました。はっちでは新しい制作拠点としてたくさんの方と出会えました。その時のお客様とは、はっちを卒業し、新店舗を寺横町に出した今でも繋がりがあります！市内外のクラフト市出店や個別オーダーなど、新たなお客様との繋がりがも増えてきています。はっちの外へと活動の場は移りましたが、今後も八戸を拠点に活動していきます！

開館当初からはっちで生放送をしています。8年が経ち「使いやすい発表の場」として、多くの人がはっちに集まって来ていますね。開館当初はボランティアガイドさんや警備さんにまでゲストでご出演いただきました！僕にとって、はっちは「情報収集の場」となっています。皆さんこれからも身近なラジオとして、76.5MHzを聴いて、スタジオ前で気軽に手を振ってくださいねー！



コミュニティラジオ局 BeFM  
パーソナリティー八奈見さん



これからも  
よろしく  
お願いします！

祝  
はっち  
8周年

八戸ポータルミュージアム「はっち」は地域の資源を大事に想いながら新しい魅力を創り出すところ。まちづくり、文化芸術、観光、ものづくり、子育てを軸とした活動をサポートする多様な設備を備えています。

八戸ポータルミュージアム はっち

〒031-0032 青森県八戸市三日町11-1  
TEL | 0178-22-8228 FAX | 0178-22-8808 WEB | http://hacchi.jp  
開館時間 | 9:00~21:00 ※こどもはっち 9:30~16:30  
休館日 | 毎月第2火曜日(祝日の場合その翌日)、12月31日及び1月1日  
Facebook | facebook.com/hacchi8 Twitter | @hacchi\_staff  
各社新聞、コミュニティラジオ局 BeFM でも情報発信中です。

【交通のご案内】

バス / 八戸駅東口からバス八戸市中心街方面行き【約25分】  
八戸中心街ターミナル(八日町)下車すぐ  
鉄道 / 八戸駅からJR八戸線八戸駅下車【徒歩約10分】  
航空機 / 三沢空港から八戸市内シャトルバス【約55分】  
フェリー / 八戸港フェリーターミナルから車【約15分】  
車 / 八戸駅から車【約20分】  
※一般駐車場はございません。周辺の有料駐車場をご利用ください。



はっちリレーショナルプレス【はちみつ】vol.33  
発行：八戸市まちづくり文化スポーツ部 八戸ポータルミュージアム  
発行月：平成31年1月 部数：18,000部 印刷経費：1部あたり35.6円

2012

はっち流  
騎馬打毬

美術家ユニット「KOSUGEI-16」代表

# 土谷 享



アートが身近な場所で生活を豊かにしていく存在となることを目的に、参加型の作品を通して、参加者同士あるいは作品と参加者の間に「もっちもたれつ」という関係をつくりだす活動を行っている。KOSUGEI-16による近年の主なアートプロジェクトとして、'MOCHI SCRAMBLE' (高知県立美術館、2018)、Playmakers Sendai (せんだいメディアテーク、2016) など。  
HP <http://kosugei-16.com>

江戸時代から八戸に伝わる伝統武芸「加賀美流騎馬打毬」と、八戸名物の「ロボコン」を組み合わせたプロジェクト。「騎馬打毬ロボコン大会」を大きな柱とし、騎馬打毬観戦ツアーや初心者向け講座、八戸の馬文化に迫ったドキュメンタリー「馬と人間」の制作などを実施。ものを作り、力を合わせてロボットを操り、楽しく競い合いながら、ふるさとの誇る伝統文化を身体を通して共有することを目的としたプロジェクトです。

**Q** プロジェクトの内容を決めたきっかけ、経緯を教えてください。  
**A** 最初に騎馬打毬を見に行った時、想像以上の迫力に感動したのと同時に、観客が少ない印象を持ちました。また、市民に騎馬打毬について尋ねると、存在は知っているが実際に見に行っていない人が結構多いことに気づきました。そこで騎馬打毬と市民との接点をユニークで印象的な方法で増やすことはできないかと悩んでいました。ある日、図書館で情報収集のため八戸の郷土資料を閲覧していた時に山田先生の中学生ロボコンの記事が目に入り、ロボコンならば騎馬打毬のゲームを疑似体験できると考えました。これが企画の骨格になっていきました。

**Q** プロジェクトで印象的、記憶に残っていることはありますか？  
**A** 最初から最後までたくさんのお出合い、学び、発見がありました。その中でも特に、はっち流騎馬打毬らしさという点では、ちうら階にオープン工房を構え、夕方になると小学生や高校生のほかに仕事帰りの大人のチームやホテルマンチーム、そしてアイドルチームなど多様な市民が集まり、それぞれのロボット制作に励む場になったことが印象的でした。これまでのロボコンは年齢や学校のカテゴリーによって対象が分けられていましたが、はっち流騎馬打毬のロボコンは大人も子どももプロもアマも入り乱れて、世界初の市民ロボコンとなりました。

**Q** 八戸の印象は変わりましたか？  
**A** もちろん変わりました。とにかく、人的資源だけではなくて資源の人が豊富ななど気がつきました。資源の人は固有の技術や得意な事を持っていて、地域の活力(資源的)になるような個人を指します。まだまだほとんど知られていない言葉ですが、それこそは、この言葉は私の知り合いが最近ひらめいた造語。今後、地域社会は資源的人の存在を見直し、活用する時代が来ると思っています。

**Q** 八戸のお気に入りスポットは？  
**A** POLOライディングクラブ、かん東、八戸ブックセンター。

**Q** 仕事の必需品や愛用品は？  
**A** ボール盤(穴をあける機械)

はっちは2019年2月11日で8周年を迎えます。

はっちにとって「8」は特別な数字です。  
八戸の「八」、末広がりで縁起のいい数字。

開館から8年  
はっちはみなさんの暮らしの一部になれたでしょうか。

お友達のおしゃべりに  
ランチ前の待ち合わせに  
日頃の成果の発表場所に  
放課後の居場所に  
八戸を知るための情報の源に  
新しい表現に触れるきっかけに。

まちに、人に、元気を生み出していくツールとして  
これからはっちは八戸の魅力を創り出していきます。

**ロボットのシステムづくりのメンバー 広住 仁さん**  
(八戸市民ロボコン実行委員)

馬や乗り手の動きを再現するため、試作を重ねてロボットを作りました。アナログの楽しさを残すために、ロボットは電池式ではなく、あえて操縦者がぐるぐる手回し発電機を回して動かすようにしたんです。大会当日は、選手たちが手回し発電機をすごい勢いで回すものだから、次々に壊れていってしまっただけ。敗退したチームが勝ち上がったチームに手回し発電機を貸してあげる、といったうれしい光景があったことを今でも覚えています。だれでも参加できるロボコン大会を開催したいと前から考えていたのですが、この騎馬打毬ロボコンには、小さい子どもから年配の方まで大会に参加してくれて、これだ!と思いました。その後はちうで定期的に開催されるようになった市民ロボコンは、この騎馬打毬ロボコンがきっかけで始まったんですよ。




**騎馬打毬に出場する馬たちを飼育している 平野 直さん**  
(POLOライディングクラブ代表)

騎馬打毬を題材にロボットコンテストを開催すると聞き、八戸にはえんぶりなど有名で特徴的な題材となりそうなものがあるのに、なぜ騎馬打毬!?と驚きました。そもそも騎馬打毬のあの動きがロボットで再現できるの?とも思ったけれど、土谷さんたちが、仕上げてくれたロボットを見て驚いた!うまい感じにできていましたね。騎馬打毬ロボコンが開催されるまでは、地元でも騎馬打毬を知らない人が多かったと思うけど、ロボコンの題材にしてもらい、その後もはっちで騎馬打毬観戦ツアーなどをやってもらったことで、8月2日の本番には観戦者が増えたように感じます。それから、騎馬打毬をやってみようという問合せがあったり、地元の人にも騎馬打毬のことを知ってもらいきっかけになったと思います。




**2013.3** グッドデザイン賞受賞 (八戸レビュー) [10月]

**2012** 来館者数 100万人達成 [3月]  
照明学会 照明普及賞受賞 [5月]

**2011** はっちオープン [2月]  
東日本大震災臨時避難所として運営 [3月]  
八戸レビュー販売 [7月]

history of hacchi



これからも、もっちもっちと八戸

## はっちの8周年

はっち8周年。これまでとこれからと。

### 8周年セレモニー

2/11(月・祝) 10:00~12:00

はっちの誕生日を祝うセレモニーのほか、オープニング企画「八戸レビュー」の写真家 浅田政志さんによる8年目の記念撮影を行います。八戸の未来を語るトークセッションも開催します。

### 全国アート NPO フォーラム 2019 in 八戸

2/9(土) 13:10~18:30 2/10(日) 10:30~17:00

全国の地方都市で革新的なアートプロジェクトの実践者として活躍する約20組の市民団体による活動発表と、劇作家 平田オリザさん、東京大学教授 宇野重規さんらによるフォーラムを行います。

### 「はっち Fun Fun Fanfare!」による「8回目のお祝い」

2/11(月・祝) 15:30~

チケット：前売り3,000円 当日3,500円  
サックス奏者 鈴木広志さんと仲間たちがこの日だけの特別バンド「はっち Fun Fun Fanfare!」を編成。8周年お祝いコンサートを行います。開場は15:00。



「はちみつ」バックナンバーも開催します。

アーティストに聞く

2014

はちのへごっこ「ハマネコ」

布アーティスト・映像作家

# 大島亜佐子



糸や布で描く「縫い絵」を中心とした作品による展示会活動に加え、NHK みんなのうた「ウメボシジヤセイ」の作詞と映像、おかあさんといっしょ「アニメエフのたまご」「まほうのくつ」アニメーション、「冬の娘リッカロック」おもちのブルースの作詞、ハーゲンダッツ、資生堂、カルビーなどの企業アニメーションやインスタグラム画像制作なども手がける。2018年11月に絵本「パースデーツリー」(ディアカズ社)を出版。HP <http://migotoca.com/>

八戸の沿岸部を舞台に、カフェを営むハマネコと、ウミネコのカブの日常を描いたアニメーションを制作。「NHK みんなのうた」なども手がけた映像作家の大島亜佐子さんによる作品で、多くの八戸市民の方が参加しました。主題歌はミュージシャンの坂本サトルさん、劇中の料理は八戸市番町「ビストロ ポ・デタン」の三浦シェフ、声優には多くの市民の方が参加しています。八戸の魅力がたっぷり詰まったアニメーションです。

**Q** プロジェクトの内容を決めたきっかけ、経緯を教えてください。

**A** 企画書を携えロケハンで市内をいろいろ見て回った時、鮫角灯台に出会いました。灯台とその下を走る「八戸線」、さらにその下に広がる海：このロケーションにとっても惹かれてしまっ、主人公のハマネコのカフェはここにしようと思った。ハマネコのキャラクターデザインは、いさばのカットの皆さんの可愛いスカイラインがモチーフになっています。また、八戸の方言もとても印象的だったので、アニメーションのストーリーに取り込みました。

**Q** プロジェクトで印象的、記憶に残っていることはありますか？

**A** たくさんの地元の方々に協力していただいたこと、プロフェッショナルの方々、一般の方々、皆さんとたくさんお会いできてお話できたことが本当に嬉しかったことです。市民の皆さんに声優として協力していただいたのですが、皆さん本当に「役者、揃いで感動しました。音楽を作っていた坂本サトルさんのラジオ番組に出させていただいたり、ビストロポ・デタンの三浦シェフに作っていた料理を撮影後スタッフの皆さんと一緒に試食したことも印象深い思い出です。

**Q** 八戸の印象は変わりましたか？

**A** このプロジェクトで八戸に初めて伺ったのですが、長い期間の滞在制作だったこともあり、今では第二の故郷みたいに感じています。

**Q** 現在はこういった活動をしていますか？

**A** 絵本「パースデーツリー」(ディアカズ社)を出版しました。名入れ絵本と言って、主人公の名前を大切な誰かの名前にカスタムできる誰もが主人公になれる絵本です。ほかには、資生堂などの企業のアニメーションや、企業インスタグラムの画像制作、「縫い絵」を中心とした作品制作と展示活動をしています。2019年には、はっちで作品展示をさせていただく予定になっています。再び八戸の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。



1. はちのへごっこ「ハマネコ」のメインイメージ。2. アニメに出てくる鮫角灯台の撮影の様子。3. 坂本サトルさん指導のもと、声優のみなさんと歌の収録。



いがったらカレー 恋するサバサンド

**Q** 八戸のお気に入りスポットは？

**A** たくさんあるので、選べない！のですが…朝ごはんを「陸奥湊の市場」で食べて「鮫角灯台」から海を眺めてまったりして…夜は洋酒喫茶プリンスで酔っ払う…でしょう。



**Q** 仕事の必需品や愛用品は？

**A** スケッチブック&水彩絵の具。アニメーションを作る時も原画はアナログに「描く」のでもいつも作業デスクにセットしています。



**劇中に登場する料理を考案してくれた 三浦 祐紀さん**  
(「ビストロポ・デタン」シェフ)

お題は「いがったらカレー」に「恋するサバサンド」。何しろ最初からネーミングありきのメニュー開発だからね。でもそれが逆に面白いと思って引き受けました。「物語に出てくる料理」だなんて、普段の守備範囲じゃないですからね。どうするかと思いつつ、いろんなスパイスを取り寄せたり、素材もいろいろ組み合わせでね。「カフェ」で提供されるプレート、それも物語の中のハマネコが八戸に出したカフェ。「おいしくてビジュアル的にもかわいい」を試行錯誤です。あまり専門的に突き詰めたらカフェメニューじゃなくなっちゃうし、調理工程も撮影するからある程度のクオリティは保って、制約のある中で自分の遊びを試す感じが面白かったかな。アニメの出来上がりを見たときは、正直、「結構いいじゃん！」って(笑)、全体的にね。家でも、下の娘たちはまだ小さかったから、最後のほうのメイキング映像に僕が出てくるし、すごく楽しそうに見てたのも嬉しかったですよ。



**主人公「ハマネコ」の声を担当した 増尾 桃佳さん**

もう4年も前なんです、懐かしい〜！友だちに誘われて、ジュニアうみねこ演劇塾に通っていて、それがきっかけで出演することに。普通、アニメは映像を見ながら録音していくと思うんですが、あの時は先に声録りだったので、イメージ写真を見て想像しながら台本を読むのが難しかったです。演技指導の疋谷先生や大島さんのアドバイスを受けて、とにかく一生懸命にやりました。カブ役の男の子は南部弁のセリフがさらに大変そうでした。私の役は標準語で発音するのですが、自分では普通に喋ったつもりが「今は八戸訛りだよ」って言われてすごくびっくりしました。分からないことだらけで緊張したけれど「楽しい」「面白い」という気持ちが強かったです。歌も覚えやすく、完成の試写を見たときにすごくかわいいアニメで、知っている場所もおしゃれなりゾート地みたいな映像になっていたり、自分の声アニメの一部になることが不思議で、嬉しいような恥ずかしいような…。すごく貴重で、誇らしい経験でした。

アーティストに聞く

2015-2016

八戸ロマン 時空探検祭 是川時空探検祭

にぎわい空間作家

# YORIKO



1987年埼玉県生まれ。「多世代・多業種の協働」をキーワードに各地域でアートプロジェクトを展開。その土地の文化を取り入れ、さまざまな世代が参加・交流・コラボレーションできる企画に変換させ、にぎわいあふれる空間と時間を創り上げる。「八戸ポータルミュージアム AIR」(2015)をはじめ、「高松市 AIR」(2016)「中之条ビエンナーレ」(2017)「大地の芸術祭 2018」(2018)などに参加。HP <http://newmor.net>

**Q** プロジェクトの内容を決めたきっかけ、経緯を教えてください。

**A** 決め手となったのは視察で八戸を初めて訪れた際に行ったは川縄文館でのインパクトでした。合掌土偶様はもちろん、各展示物の質の高さに驚き、縄文文化についても知りたい！と思いました。

**Q** プロジェクトで印象的、記憶に残っていることはありますか？

**A** 八戸の飲み屋街での夜、探検隊のメンバーさんたちとの交流、はっちスタッフさんたちとのあんなことやこんなこと、いろいろありますが、ある意味一番濃い記憶は、はっちは川縄文館への自転車通勤でした。止める周りの声を聞かずに自分で決めたものの、到着時で体力が残るほどになっていました。反省、でも良い思い出。

**Q** 八戸の印象は変わりましたか？

**A** 変わったというより、自分にとって他人事ではない、とても大切な場所になりました。住んでいる方々のあたたかさ、「おかえり」と言ってくれるはっちのみなさんが大好きです！

**Q** 仕事の必需品や愛用品は？

**A** 半分わざと汚っていったボロボロのつなぎ。これでうっかり飲食店に入るとちょっとびっくりされます。

**Q** 現在はこういった活動をしていますか？

**A** 八戸での経験を機に「まち」で役に立てる作家になりたい！と思うようになり、各地域に出発して住民の方々と一緒に作るアートプロジェクトに動いております。でも八戸は第二の故郷です(くどい)



探検隊の隊員が作ったオリジナル土偶



2. 縄文知識を学びながら、衣装や土偶、楽器を作りました。



3. 三日町の空き店舗に作った探検隊の基地。



4. 是川縄文館での「是川時空探検祭」の縄文ビート音楽祭。みんなで丸太を楽器に演奏しました。

**Q** 八戸のお気に入りスポットは？

**A** ①はっち②蕪島③魚家金兵衛 ①は言うまでもなくホーム。②は蕪島の隠れ名物「勝ちかぶ守」を毎年買うことがミッション。③はかくかくしかじかで、外装を手がけさせてもらった愛しい場所です。



**縄文基礎ツアーの講師をしてくれた 小久保 拓也さん**  
(八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 学芸員)

縄文基礎ツアーの講師をしたのですが、きちんと小学生向けの講師をするのは初めて！どんなアプローチがいいのか試行錯誤でした。その経験を現在、縄文館での子ども向けプログラムにいかしています。縄文館のイベントは真面目でちょっと敷居が高いと感じてしまうようなものがほとんど。このプロジェクトは、学習的なものはちょっと脇において、まずは「楽しい」「素敵」と印象付けて、その結果知識に繋がっていく。学びの基本を体現してほしい。縄文に興味を持ってもらう入口として、効果的だったと思います。これをきっかけにその後縄文館のイベントに来てくれる子どもたちもいるんです！間口が広がって嬉しいですね。その後の「是川時空探検祭」は、同業者に紹介すると驚かれます。アーティストと埋蔵文化財センターのコラボレーションなんてあまり前例のないことです。ましてや縄文演劇なんて！縄文館スタッフにも大好評でしたし、なにより子どもたちの表情が印象的でした。楽しんで学ぶいい例ですね。アートと縄文が結びついて、どう受け入れられるのか心配でしたが、YORIKOさんの人を引き込んでいく力に驚きと刺激を受けました。自分たちだけではできないことを、アーティストやはっちと協力してチャレンジできたことは嬉しかったです。



**探検隊員として参加した 川村さん親子**



【莉央ちゃん】探検隊への参加をきっかけに縄文時代の本を何冊も読みました！探検隊の活動では毎回衣装や土偶、楽器など自分のアイテムが増えていくのが嬉しかったし、最後の合宿では隊員のみなどと楽しく縄文人になりきれました。石器で魚を切ったのもすごくいい思い出。YORIKO 隊長からもらった土偶ネックレスは今も宝物です。家にはその時のグッズや縄文の本を集めた縄文コーナーを作っています！今は縄文時代だけでなく歴史全体に興味があり、特に戦国時代に夢中です。【潤子さん】探検隊に参加して、想像していた以上に縄文時代のデザイン性の高さや、装飾品の可愛さに触れ、縄文って面白い！と親子で縄文ファンに。その後も何度か縄文館や三内丸山遺跡、一戸町の御所野遺跡にも親子で出かけたほど。探検隊がきっかけで、恥ずかしがり屋の娘も行動的になり、人とのコミュニケーションの場に積極的に参加するようになりました。YORIKO 隊長の人柄や、アートを通して、楽しみながら縄文文化を学ぶことができました！今は縄文とアイヌの深いつながりに興味がいっぱいです。



2017.3

八戸ブックセンター開店 [12月]

2016

第8回ふるさとあおもり景観賞 地域づくり活動部門最優秀賞受賞(まちくみ) [4月]  
来館者数 500万人達成 [6月]  
地域創造大賞(総務大臣賞) 受賞 [6月]  
六日町ガーデンテラス開業 [6月]

2015

来館者数 400万人達成 [6月]  
魚ラボ・田附勝写真集「魚人」発売 [11月]  
※魚ラボ：八戸の魚をめぐる人・技・知恵を改めて見つめ直すプロジェクト  
KIBOW 年次大会 2015 準優勝(まちくみ) [11月]  
※まちくみ：「まちくるみ」で八戸市の中心街をおもしろくする市民集団

2014

第43回デーリー東北賞受賞 [11月]  
文化庁長官表彰受賞 [3月]  
(文化芸術創造都市部門で八戸市が受賞)  
来館者数 300万人達成 [5月]

2013.4

来館者数 200万人達成 [5月]  
グッドデザイン賞受賞 [10月]  
(はっちが行う「市民が地域づくりに参画できる仕組みプロジェクト」が受賞)  
第33回東北建築賞受賞 [10月]  
「日本建築家協会優秀建築選」100選受賞 [10月]



鎌田高広



第57期宣伝会議コピーライター養成講座修了後、東京の広告制作会社勤務を経て、1994年、仙台で「鎌田高広事務所」を開所。東北に密着した活動を大切にしながら、幅広い制作活動を展開している。2008～2011年東北大学大学院環境科学研究所企画研究員。主なコピーは「女川ボスター」...

44人の市民記者が文章・取材講座を受けながら、八戸に息づく歴史・風習・産業・文化・スポーツ・暮らしなどをテーマに、市井の人々に焦点を当てた88篇のストーリーを編み上げました。鎌田さんには文章・取材講座の講師と、88篇のストーリーのタイトルコピーの作成をしていただきました。

(DASHJUN プロジェクト：2016年から5年間に渡り、八戸三社大祭をめぐる人々のつながりや独自の造形美を見つめ直し、「八戸三社大祭」を次世代へつなげていくプロジェクト)

プロジェクトで印象的、記憶に残っていることはありますか？

プロジェクトに取り上げられた題材そのものの魅力と熱、取材に関わったメンバーさんたちの書くことに対する情熱、そしてプロジェクトをまとめる立場で奮闘された事務局さんの計り知れない熱量。派手さはないものの、身体の芯に直接伝わってくるような強い熱さを随所に感じることで、末席に加えていただいた幸せを噛み締めていました。

八戸の印象は変わりましたか？

もともと大好きな街でしたが、プロジェクトに加えていただき、ますます好きになりました。私自身八戸の魅力は「八の重(はちのえ)」のようになっていると捉えており、まだ表面的な一重、二重程度しか知っていないと感じています。これからも頻りに訪れ、まだまだ深く豊かに広がっている魅力に触れていきたいとワクワクしています。

現在はどういった活動をしていますか？

これまで通り広告コピーやCM企画制作がベースですが、企業の年間広告企画の立案や、広告とは逆に、表に出ない従業員向けイシュー施策をお手伝いするなどの仕事も増えています。

仕事の必需品や愛用品は？

三菱鉛筆製ボールペン「JEITSREMI」です。拙い草案原稿の書き出しを、ほんの少しだけ滑らかにしてくれま。このQ&Aのため、再確認したところ、事務所内に10数本ありました。笑。※写真は「きれい目」のものだけ集めて、それっぽく撮影したものです。



八戸のお気に入りスポットは？

市内繁華街を見渡せるはっちのレジデンスや洋酒喫茶プリンス、宝来食堂など、気に入った大きな場所や風景は数え切れません。そしてなぜか今でも時折、新幹線を降りて八戸駅からはっちに向かう際、バスの車窓から見える根城界隈の景色が、たまに夢に出てきます。(一度バスがぐるっとUターンして橋の下を周り、赤十字病院に立ち寄るリアルな感じも含めて)



1.毛皮屋さんに取材中の高校生。2.展示のオープニングトークでは市民記者、鎌田さんをお迎えし、取材の裏話を語りました。3.全6回の文章・取材講座を行いました。4.展示では88篇のストーリーがずらり。

オープン時は毎日が大混雑で、曜日に関わらず毎日数百名の来場が続いたんです。『行政が運営する、中心街にできた子育て支援センター。県産材の安全な遊具が揃って、1日100円！』です。だからね。とにかく注目されてました。『当時は行政が運営する子育て支援センターは全国的にもめずらしく、しかも空洞化した中心街に設置され、街の賑わいの中心を担う施設として戦略的役割も期待されていた。』

『ゼロからのスタートでしたから、ここで何が出来るのか、何が求められているのか。来場するパパママに聞き取りをしたり、地域の声を聞いて、可能なことは何でも取り組んできました。』

こどもはっちでは実にさまざまな取り組みをしています。子育てサポート、ふたごひろば、季節のイベント、文化体験活動、工作教室、リトミック、おもちや病院、読み聞かせ、子育て相談など多岐に渡ります。何かあればすぐに対応する姿勢から生まれたものも多くあります。

『おまが市はもとも職員同士の間で始まったんですが、ぜひイベントとしてやってほしい』という声をいただいたので、今では大人気イベントの一つになりました。ほかにも、帰りに子どもたちに渡す折り紙も『帰りに子どもたちに渡す折り紙も』と泣いてしま

「こどもはっち」は青森県産の木材をふんだんに使い、遊具もすべて木製で、はいはいサークルや木のプール、絵本展望台などを備える人気施設です。子どもたちにさまざまな体験の場を提供し、感性を磨き、知恵と思いやりの心を育ててほしいという願いから作られました。八戸市の委託を受けて運営する、こどもはっち(NPO法人はちのへ未来ネット) 代表の平間さんに、8年の軌跡についてうかがいました

「こどもはっち」は、8年前のこどもはっちオープン時の様子

8年前のこどもはっちオープン時の様子



折り紙をもらってニコリよまた遊びに来てね!



こどもはっち

9:30~16:30 (1月2日・3日は10:00~16:30) 毎月第2火曜日(祝日の場合その翌日) 年末年始 12/29~1/1 100円 (未就学児は無料) 0178-22-5822 http://kodomohacchi.net

※混雑時には入場制限をさせていただく場合があります。

幸運の8を探せ!

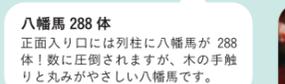
「8」にこだわるはっちの館内にはたくさん「8」が隠されています。探してみてください!



はっちコート はっちの真ん中を貫き吹き抜け空間。よく見れば八角形なんです。



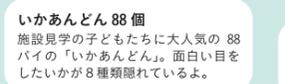
こどもはっち8の字テーブル 真ん中に空いた穴からひょっこり顔を出して遊ぼう! 大きな「8」の形をしたテーブルです。



八幡馬 288体 正面入り口には列柱に八幡馬が288体! 数に圧倒されますが、木の手触りと丸みがやさしい八幡馬です。



こどもはっち八戸風絵 八戸の伝統的な風絵が8枚飾られています。通称「八方配まれの間」と言ったり言わないのだから?!



いかあんどん 88個 施設見学の子どもたちに大人気の88パイの「いかあんどん」。面白い目をしたいかんが8種類隠れているよ。



裂織 88枚 伝統工芸・裂織と菱刺しを紹介する展示壁には、色とりどりの小さな裂織パネルが88枚。お気に入りを見つけてください。



椅子「八」模様 2-3階のリビングにあるイスの座面は、はっちオリジナルの「八」模様。

からくり時計 獅子頭は全部で8つ。毎時00分には、木のあたたかなリズムが響き渡ります。



展示ボードの模様 「八」の文字で縁取りされている展示ボード。ほかにも「8」の模様があります。



こどもはっち八角形の絵本の塔 絵本がたくさん並んでいる本棚、実は八角形なんです! 絵本は貸し出しもしていますよ。

階段 8段ずつ はっちの階段は踊り場まで8段ずつ。階段の途中には八戸の豆知識も登場します。

2019.3

来館者数 700万人達成 [8月] 全映協グランプリ 2018 CMキャンペーン部門 優秀賞受賞(88異国プロジェクト)[11月]

2018

2017.4

来館者数 600万人達成 [7月]

「八戸まちなか広場 マチニワ」オープン [7月]

「更上閣にぎわい広場」オープン [2月]

